

会議開催記録

会議名	第6回 森町学校のあり方検討会
日時	平成30年3月13日(火) 14:00～15:40
場所	森町文化会館第一研修室
出席者	教育長 検討会委員21名、事務局10名
議事	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 会長あいさつ 3 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 報告書(答申)について (2) その他 4 報告書(答申)提出 5 閉会
議事要旨	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 (事務局) 2 あいさつ (会長) <p>第6回の検討会は、今までの検討会で作成してきた報告書を完成させて、来年度以降の具体的な動きに繋げていくという大切な会になる。委員のみなさんによりしく願いたい。</p> 3 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 報告書(答申)について <p>会 長：前回の議事録の確認</p> <p>事 務 局：報告書(答申)の説明</p> <p>委 員：細かな表記になるが気付いた点がある。2ページの(1)、3ページの(2)、3ページの下から6行目、5ページの3(1)に表現として幼稚園が入っているので園児を入れるのはどうか。</p> <p>会 長：答申書の内容を修正するというので良いか。法的には現在の児童という表現に園児も含まれている。</p> <p>事 務 局：分かりやすくするため、該当箇所は一括して修正を行う。</p> <p>委 員：3ページの翌年度以降というのは31年度のことなのか。であれば順序として平成31年度の内容の次に平成30年度の内容を持ってくるのはどうなのか。</p> <p>会 長：「上記予測は」という記述を後から加えており、文章が複雑になっている。翌年度以降という箇所を消して、児童生徒数の推測に係る記述を最初にする。その後に段落を変えて上記表の予測の内容に繋げ、天方小学校の学級数の見込みにする。</p> <p>委 員：4ページの(2)の最終行にある「中学校は」という箇所があるが、この中学校というのは泉陽中学校のことであるので、「また」とか他の表現に変えるのはどうか。</p> <p>事 務 局：保護者からのアンケートの結果から、泉陽中学校に限らず、他中学校でも部活道の選択肢が少ないという意見があるので、森町の中学校全体の問題でもある。</p> <p>会 長：「中学校においては人数が少ないほどに、部活動の選択肢が少なく、活動に制約が生じることが想定される。」という一文に変更をして、3ページの下から2行目の「…生徒数の減少が予想される。」の後に入れる。</p> <p>委 員：6ページ②の箇所の「泉陽中学校区の3/4以上…」という箇所があるが、アンケートの結果を見ると83%になる。そうすると3/4ではなく4/5になる。</p> <p>会 長：アンケート結果の該当箇所をまとめると82.6%になる。下の行でパーセント表示しているので、ここもパーセントで表記して、「83%」とする。</p> <p>委 員：6ページ③の「交流授業等の充実～」の表現の部分について、「多様な」という表記は、多様な意見、多様な見方など、人間に対して「多様」は使わないのではないかと。「他校の児童生徒の多様な考えに触れる」などの表現に変えるのはどうか。</p>

会長：「多様な人間とふれあう環境の充実」の箇所を「多様性のある環境の拡充」とする。

委員：7ページの最後の箇所「または、それにより～」の部分であるが、ここで「それにより」という表記は、この文の前にある小中一貫校の開設を指してしまうので、「それにより」を削除しても良いのではないか。

会長：全体の文章として「それにより」を削除しても問題はないので削除する。
「いつやるのか」、「緊急性を明記して欲しい」という意見が前回多くあったが、30年度を目途に方向性を得るということを8ページに記載している。このような内容で問題ないか。それ以外の点でも意見があればお願いしたい。

委員：30年度に方向性を得ると記載しているが、その結果はどういった形で示されるのか。

会長：この答申書は教育委員会に報告することになっている。この検討会自身は決定権を持っておらず、ここで出来るのは提案のみである。その提案を基にして計画を立てるのが教育委員会である。そして教育委員会の審議の結果は議事録において確認ができる。議事録は町のホームページで確認ができる。議会だよりなどでは、どこまで掲載しているのか。

事務局：みなさんに通知で報告をすることはしない。教育委員会の定例会の議事録を見て頂くか、町の広報などで今後随時報告をしていくことになると思う。

委員：8ページ③にある「認定こども園への移行等」とあるが、移行以外にどの選択肢があるのか。

事務局：公立幼稚園が認定こども園への移行に加えて、統合なども含めた再編も考えられるので、現在の表記になっている。

会長：この学校のあり方検討会の結論としては、この様な形で答申書を出すということで合意してよしいか。

各委員：同意

(2) その他（検討会を終えて感想）

委員：森町も人口が減少している。総合計画の中でも予想されている。学校は特に地域にとって重要な所で、それがなくなっていくというのは非常に寂しい思いがある。学校の経営のことを考えるとやむを得ないこともある。人口減少をそのまま見過ごすよりも少しでも人口を減らさない方法や人口増加への対策をやっていかなければならない。地域でもそういったことをしっかり考えていかないと、今後は人口減少への対応も出来ないと思う。

委員：教員として勤めていたが、今まで勤めていた学校が現在ほとんど無くなっている。統廃合は、話が出てきてから2年ほどは時間がかかる。これから事務局等が大変な時期を迎える。この答申を尊重しながら頑張ってもらいたい。

委員：最近の新聞を読むといろいろな議会の報告などを見る。私は議会の内容の予算額を見るが、森町は予算額が少ない。大きい市町は多くの予算があるが、森町は少ない予算の中で教育に負担をしていく。森町の良さを考えた時に森町ではどういった子供達が育っていくのかというのが今後財産になる。子供からお年寄りまで触れ合うコミュニティを形成できると良い。森町は住みやすい環境なので、予算は少ないが知恵を出し合ってやっていける世の中にできればと思う。

委員：何も分からないまま1年間が過ぎた。最後になって森町の現状が分かってきて、子供がもっと増えれば良いなど期待している。今自分が住んでいる地区では人数が増えているが、子供の数はあまり増えていない。地区の住民に伝えることを進めたいと思う。

委員：天方地区もかなり前になるが吉川小学校がなくなり過疎化が進み、子供達や工場などもなくなってきた。住み良い天方地区になって欲しい。

- 委員：三倉地区も昔は4つ小学校があった。私が通っていた小学校には当時200人以上はいた。今の人数を見ると愕然とする。子供が一番の宝であるので、これからの子供のことを第一に考えて欲しい。森町にも人口減少化対策などいろいろな会議があるが、子供への勉強に力を入れて欲しい。将来は森町で町営の塾のようなものがあると良い。その中で小学生・中学生・高校生・大学生を交えて一体となって考える時間を作り、情報交換が出来る場を作るような企画をして欲しい。
- 委員：飯田小学校や旭が丘中学校区ではあまり危機感がなかった。呼ばれたことに対して、どう考えれば良いのかハッキリしなかった。1年間の学校のあり方検討会を通じて、幼稚園や小学校の子供達の人数が減っており、大変な状況にあるというのを認識できた。子供達のために今できることをもっと早くスムーズに改善できたらと思う。
- 委員：1年間を通して知らなかったことを沢山知ることができた。宮園地区や旭が丘中学校区の子供がいる地区しか知らなかったということに気づいた。いろいろな地区の方の思いなどを感じた。自分の子供の学年の様々な保護者の方と話すことができ、関わることで、この検討会に参加して良かったと思う。
- 委員：小学生の下の子供が大きくなるまでの間に、何か進めば良いというのが率直な感想。子供達が困らないようにして欲しい。中学生の子供もいるが、今中学校に通っている中で問題があったりする。町をあげて町の子供が円滑に学校生活を送れるようになるべく早く進めば良いと思う。
- 委員：地元が天方地区で、天方小学校、泉陽中学校に通ったが、当時も過去と比べて人数が少なかった。今もなお人数が減ってきていて、複式学級の学年に進級することに不安を感じている。自分の娘が幼稚園の時に天方幼稚園と三倉幼稚園が合同になり、友達が小学校で天方小学校と三倉小学校に離れることや、来年度は複式学級になるなど大きく環境が変わってきている。親も子供も不安が大きい。この先どんどん人数が減っていく中で、母校がなくなる不安や寂しさはあるが、将来の子供達のために森町がより良くなっていくことを願っている。1年間様々な意見を聴いて勉強になった。
- 委員：旭が丘中学校区は、森町の中では児童生徒がいる方なので、そんなに危機感を感じていなかったが、他の中学校区にある課題を知ることができた。自分が住んでいる所だけではなく、森町全体で考えていくことが必要だと感じた。
- 委員：ずっと森に住んでおり、兄弟も同じように森に住んでいる。近くに住んでいるので、安心して暮らせる。自分の周りでは少子化を感じたこともないので、町内に住む人も同じようになれば良いと思う。今まで思ったことはなかったが、身近に住んでいることで助け合って生きていくことができるというのを改めて感じた。
- 委員：泉陽中学校の来年度の入学生が8人しかいない。アンケートの項目にもあったが、学びきれていないという言葉が響いている。子供達が学んでいけるのか不安に思う。部活動も男子は野球と陸上、女子は陸上しかない。学校のあり方検討会は、今後も過疎化が進んでいる地域の学校のためにもっと考えていき、とにかく子供のために大人が動くことが必要だと思う。
- 委員：子供が三倉幼稚園への入園予定だったが天方幼稚園に変更になった。その時にいろいろな思いがあって、その思いをどこに発信すれば良いのかというのがあった。この学校のあり方検討会でその機会があって本当に良かった。
- 委員：3つ感じたことがある。1つ目は目安として平成30年度に方向性を得るという一文を入れたことが個人的に非常に大きいことである。2つ目は、町内の全保護者に対してアンケートを実施したことで意識が変わってきたのは良いことだと思う。平成40年には、旭が丘中学校も3学級から2学級に減ってしまう。10年後には保護者の意識もまた大きく変わる。来年度に具体的な方向性が出てくると思うが、10年

後やその先も検討して欲しい。3つ目は、小規模校が培ってきた地域ぐるみの教育を生かすという文面があったが、三倉小学校の自然を生かした活動というのは、いろいろな面で活用ができる。自分も携わることがあれば協力したい。

委員：平成27年度から2年間にPTAの方と学校のあり方の意見交換する会を行った。小規模校が抱えている問題も話題になった。地域で行われる自治振興協議会にも出席すると、直接の子育ては終わり、孫の世代になっている方々が学校を存続させるために、若い人たちを招き入れるための取り組みをしていると知ることができた。森町にそういう取り組みをしている人がいるというのは宝である。この答申を受けて、来年度中に方向が出ると思うが、そういった人たちの想いを汲んだ学校経営が出来れば、どのような結論になっても理解して貰えるのではないかと思う。もちろん子供にとって一番良いあり方になるというのが前提。泉陽中学校区だけの問題として考えるのではなくて、森町全体として考えて頂いたのが本当にありがたい。

委員：2つ感想がある。1つ目は学校の統廃合や再編について、近隣の市町では、教育委員会が結論を急に出すこともあるが、森町では学校のあり方検討会を設けて、諮問・答申を行ったことが大変意義のあることだと思う。2つ目は、稚園教育についても検討課題として盛り込まれたことがありがたい。

委員：いろいろな意見を聴いて、学校のあり方は町のあり方と密接に関係していると非常に強く感じた。義務教育の恩恵の格差があまり広がらないように、今回の学校のあり方検討会で提案することで、今後に繋がっていくことを強く希望する。

委員：視察などを行い、飯田小学校が以前よりも人数が減ったことに驚いた。統廃合などは、2、3年ごとだけではなく、長い目で見て検討して頂きたい。三倉小学校から泉陽中学校に上がったときに、通学費が大変だったという話も聞いた。学校が遠くなるだけでも子供達にとっても大変だが、金銭面でも大変な思いをすることがないように町で工夫をして欲しい。使われなくなった校舎をいろいろな活動に使うなど、町づくりと合わせた工夫を町全体でして欲しい。

委員：母親として子供を旭が丘中学校区で育ててきて、今は県外にいるが、いつか森町に帰ってきて欲しいと思っている。その時に、森町に帰ってきてよかったと思えるような町づくりをして欲しい。人口減少などに森町全体で取り組んでいると聞いている。人口が増えれば良いというだけではないと思うが、住み良い町づくりを目指してやっていけると良い。企業においては、高校卒業の採用は地元からが多いが、大学卒の採用は県外からが多い。今後現地採用も検討していき、人口増加のきっかけになれば良いと思う。

会長：真剣に森町のことを考えて頂いてありがたい。最初にこの話を受ける時に、人口と子供が減ってきているということは、ある一部地域だけの問題だけではなく、町全体の問題だと、しっかりとこの委員会として形を作りたいというのが一番の動機だった。多くの自治体では学校が減れば、教育委員会の担当者が地域に行き、統廃合を行うことを説得するのが一般的である。アンケートにもあるが、危機感を最初に持つのは小規模校であるというのは間違いない。実際には小さい地域だけの問題ではなく、全体から見れば森町自体が小規模な町である。学校というのは子供のためにあるので、子供を最重視するのは当たり前である。子供のことを考えれば、今の小規模校のままでいいのかと思うのは当たり前のことである。ただ単純に統廃合をしてしまえば、子供がいなくなったことをきっかけにして地域が廃れてしまう。地域が廃れていけば、子供と地域との関係が薄くなり、今度は子供の教育自体が苦しくなる。これからの教育は、国や県の政策を見ていくと、学校だけが教育を担うのではなく、地域が主体的に教育を担う必要があるのではないかと思う。そうした中で地域と子供が切り離されてしまうと、子供の教育が出来なくなってしまう。私は

人口が減るということは、社会が貧しくなることにはならないと思っている。世界的に見れば人口は増えているので、一部地域の人口減少化というのは解決できる問題であると考えている。それぞれの地域が現状にこだわり続けるのではなく、一つにまとまって助け合うことが出来れば良い。森町は人の繋がりが強い地域なので、その強さを生かして次の町づくりを行っていけば、教育も良くなるし、人口が減ったとしても、人々の生活も良くなる。今後は学校のあり方検討会の手を離れて、教育委員会が決定を下した後に地域の問題になっていく。その時にみなさんの力が頼りになる。これからの森町を支えて頂きたいと思う。

4 報告書（答申）提出

会 長：答申提出

教育委員長：森町学校のあり方について答申を頂いた。森町の教育にとって心強い答申になった。教育のハードからソフトまで幅広い対策のための提案を頂いたことを感謝したい。6回の委員会もこの委員会の時間だけでなく、後先に準備やまとめ、地域との話し合いや協議会に参加して頂いたり、いろいろな場所で情報を収集したりという話を聞くと、大変なものであったと思う。

森町では、昨年から今年にかけて、大きな答申を2つ頂いた。1つは第9次森町総合計画審議会があり、町長へ答申が渡された。もう一つがこの学校のあり方検討会の答申である。大変幅広い分野に渡っての答申であり、学校の設置、施設整備、教育課程、学校・園の運営、社会教育など、それぞれについて、1年をかけて具体的にどう進めていくかということ、町長部局あるいは教育委員会のなかで策定していくことと思う。この1年後の姿はどこで見られるのかという意見を聞いたときに胸がつまる思いだった。そこまで関心を持って引き続き見てもらえるということである。この検討会でもっと先まで検討して頂きたいという話を聞いた。さらにこれからも森町の教育のことを考えて頂ける気持ちが受け取れて大変感動した。今後とも森町の教育についていろいろな方から助言や指導をお願いしたい。

5 閉会

事務局：以上をもって、第6回森町学校のあり方検討会を終了する。

以上